

減災対策推進特別委員会行政視察概要

1 視察月日 令和5年11月13日（月）～11月14日（火）

2 視察先及び視察事項

（1）広島県広島市

要配慮者への対応について

（2）山口県

やまぐち防災ガイドブックについて

3 視察委員

委員 二井くみよ

視察概要

1 視察先

広島県広島市

2 視察月日

11月13日（月）

3 対応者

議会事務局次長（受け入れ挨拶）

危機管理室災害予防課課長（説明）

危機管理室危機管理課課長（説明）

4 視察内容

（1）要配慮者への対応について

ア 福祉避難所の整備状況

市内にある社会福祉施設を運営する社会福祉法人等と福祉避難所の設置に関する協定の締結等を行い、現在、108の施設を確保している。しかし、必ずしも配慮が必要な方の近くに福祉避難所がある状況にはなく、既存の協定施設とのマッチングが整わない場合や居住エリアに協定施設が不足する場合があることが想定されるため、随時、新たな協定施設の確保に努めている。

イ 災害時要援護者の避難訓練

避難行動要支援者の避難訓練については、令和5年度から町内会単位の防災訓練を防災訓練補助金の対象に加えるとともに、要支援者の訓練参加のための介護タクシー代や福祉専門職への謝礼金を補助対象経費に加え、避難の実効性の確保に努めている。

また、避難行動要支援者の中には、介護や医療への依存度が高い方など体調面に配慮を必要とする方もいるため、実施形態を工夫しながら、避難訓練の機会を確保にも努めている。

ウ 質疑概要

Q 乳幼児・妊産婦に対して取り組んでいることは何か。

A 備蓄しているミルクについて、アレルギー対応の粉ミルクを備蓄し、一部液体ミルクも導入している。

Q 外国人に対して取り組んでいることは何か。

A 災害対応多言語サービスなど、外国人避難者との意思疎通がと

れるよう対策を施している。

Q 外国人を含む観光客が被災した際の対応は、どのようにしているのか。

A 市内のホテル等に避難誘導アプリのチラシを配架し、来広者に対してアプリのダウンロードを推奨している。

(2) 委員所見

広島市は過去に多くの災害に見舞われている中で、当事者意識を持って防災対策に取り組んでいるということが、説明の中で随所から伝わってきた。観光客が多く、外国人の来街者も多いという特徴をしっかりと踏まえ、特に外国人の方に対する災害の備えにも力を入れており、防災への日頃からの意識の高さや取組が大変勉強になった。



(会議室にて説明聴取及び質疑)

視察概要

1 視察先

山口県

2 視察月日

11月14日（火）

3 対応者

議会事務局議事調査課調整監（受け入れ挨拶）

総務部防災危機管理課課長（説明）

総務部防災危機管理課副課長（説明）

4 視察内容

（1）やまぐち防災ガイドブックについて

ア やまぐち防災ガイドブック策定の取組内容

やまぐち防災ガイドブックは、東日本大震災等を受け、県民に「防災文化」を根付かせることを目的として作成された。山口県の過去の災害や、行政の取組等を紹介しつつ、県民一人一人が日ごろからできる備えや発災時に取るべき行動について紹介している。これまで、県行事での配布や自主防災組織での学習等での活用を通じて、県民の防災への興味関心を高めることができたため、今後は具体的な避難行動に移せるよう取組を行っていく予定である。

イ 老朽家屋の耐震化

山口県では、昭和56年5月以前に着工された「一戸建ての木造住宅」または「共同住宅」を対象に、耐震診断に対する支援及び耐震改修に対する助成を実施している。

補助率は、国が5分の2、県が5分の1、市町が5分の1を負担し、残りの5分の1を自己負担としている。助成上限額は市町により異なっており、申請は各市町の担当窓口にて行うものとなっている。

ウ 質疑概要

Q ペット避難に対して取り組んでいることや、課題はあるか

A 令和3年度から、市町や県獣医師会と連携してペットとの同行避難訓練を実施するなど、同行避難の必要性等を啓発している。

Q 山口県内の自治会への加入率はどのようになっているのか。

A 一部市町において、世帯単位での加入率を公開しており、令和3年度時点では70.8%～90.0%と市町によってばらつきがある。

Q 福祉避難所の整備状況はどのようなになっているのか。

A 県としては数値目標を掲げていないが、市町の福祉避難所確保に向けた取組を支援していく予定である。

(2) 委員所見

山口県は政令指定都市を持たず、災害時の対応は県が中心となることが多い。それを踏まえて、やまぐち防災ガイドブックの作成を行った。まずは県民に幅広く「防災文化」を根付かせることを目的に作成されており、過去の災害や、取るべき行動、行政の取組、各市町の好事例の取組など掲載内容が幅広くまとめられた一冊になっていた。県として市町と積極的に連携していこうという姿勢を垣間見ることができ、大変勉強になった。



(会議室にて説明聴取及び質疑)